



目標—指導—評価の一体化のための学習評価



中学校社会のポイント



中学校社会における単元の学習評価について、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方及び単元の目標を踏まえた単元の評価規準の作成から、観点ごとの評価の総括までの一連の流れを、事例をもとに説明します。

※ここでは、内容のまとまり「C私たちと政治(2)民主政治と政治参加」、単元「民主政治と政治参加」を例に説明します。



I 単元の評価規準を作成する

※中学校社会科では、学習指導要領「内容」の中項目が「内容のまとまり」となります。

[Step1] 学習指導要領「公民的分野の目標及び内容C私たちと政治(2)民主政治と政治参加(内容のまとまり)の記載事項を確認します。

※その内容のまとまり特有のものがない場合、「技能」の記載はありませんが、授業の中で技能は用います。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
(ア) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。 (イ) 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。 (ウ) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。 (エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。	地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、 (ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。	現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

※内容には、「学びに向かう力, 人間性等」について示されていないので、公民的分野の目標(3)を参考にします。

[Step2] 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

※学習指導要領の内容の文末を、「～している」に変換して作成。

※分野別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成します。

[Step3] 単元を構成します。

※この例の場合、「内容のまとまり」がそのまま単元となります。
 ※「内容のまとまり」をいくつかに分けて単元を構成することもあります。
 ※複数の「内容のまとまり」にある小項目を組み合わせて一つの単元とすることも考えられます。



[Step4] 単元の目標を作成します。

単元名 「民主政治と政治参加」

単元の目標

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

- 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。
- 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

[Step5] 「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、単元の評価規準を作成します。

※「内容のまとめり = 単元」の場合、「内容のまとめりごとの評価規準」を基に、より具体的な文言に書き換えることで単元の評価規準とします。具体化の必要がなければ、そのまま単元の評価規準とします。

(この例では、**[Step2]**に示した「内容のまとめりごとの評価規準」を、そのまま単元の評価規準とします。)

※「内容のまとめり > 単元」の場合、「内容のまとめりごとの評価規準」にある項目を選択したり、具体化したりして単元の評価規準を設定します。

※各観点の評価規準設定にあたっての留意事項

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識については、社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を重視して評価規準を設定する。(※細かな事象の羅列) ・技能については、その単元特有の技能がある場合、必ず評価規準を設定する。それ以外の場合、評価規準の設定は必須ではないが、授業では「社会的事象等について調べまとめる技能(学習指導要領解説P186・187)」を繰り返し活用し、その習熟を図るように指導する。	・単元において当該分野の「見方・考え方」を視野に、「～に着目して」のように具体的な視点等を組み込んだ評価規準を設定する。 ・単元を見通して「問い」を設定し、「見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりすることが可能。さらに考察・構想したことを説明したり議論したりする場面を充実する。	・地理的分野・歴史的分野においては、よりよい社会の実現を視野に、課題について主体的に追究しようとしているか、について評価規準を設定する。 ・公民的分野においては、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしているか、について評価規準を設定する。



II 指導と評価の計画を立てる

※目標に設定した資質・能力を育成するため、また、それを見取るために、以下のことに留意する必要があります。

- 1 学習指導要領の教科目標及び各分野目標に「課題を追究したり解決したりする活動を通して」と、学習のプロセスが明記されたように、単元を見通した学習課題を設定したうえで、その解決に向けて単元を構成します。
- 2 生徒は具体的な「問い」をもとに、「見方・考え方」を働かせて学習を進めることとなります。単元の学習課題のような大きな問いから小さな問いまで、単元のどこにどのような問いを設定するかが「見方・考え方」を働かせる鍵となります。問いをもたせる主要な手段は発問ですが、資料等によって生徒自身の気づきを促したり、既存の知識とのずれを活用したりすることもあります。
- 3 毎時間、評価について記録に残す必要はありません。単元の評価規準に設定したことが最も顕著に表れる時間に「評定に用いる評価」(○)を行い、全員の記録を残します。他の時間は、全員がその時間の目標を達成できるように見取り、支援する「学習改善につなげる評価」(●)を行います。
- 4 評価するためには、場面設定が必要です。例えば「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、単元のはじめには生徒が学習の見通しを立てる機会を、また、単元末には(必要に応じて単元の途中にも)学習を振り返る機会を設定する必要があります。

単元の指導計画 (22時間)

- ・単元の導入 「社会を担う主権者となるためには」 (1時間)
- ・第一次 「社会の課題を解決するためには」 (4時間)
- ・第二次 「社会の課題に国全体で取り組むためには～食品ロスを例に～」 (6時間)
- ・第三次 「公正な裁判の保障により人々の人権を守るためには」 (4時間)
- ・第四次 「私たちが住む地域の課題を私たちの力で解決していくためには」 (6時間)
- ・単元のまとめ 「主権者として社会に参画するためには」 (1時間)

単元における問いの構造

【単元を貫く問い】社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。



【第一次の問い】社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。

【第二次の問い】社会の課題となっている食品ロスを解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。

【第三次の問い】裁判において公正に判断するうえで大切なことはどのようなことだろうか。

【第四次の問い】よりよい〇〇市にするために、〇〇市議会議員補欠模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。

次	ねらい・学習活動等 ◇学習の概要 【問】主発問 <留>指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<p>【ねらい】 単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立つような情報を挙げたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p> <p>◇グループでの対話的学習で、単元を貫く問いに対する疑問を挙げながら学習課題を設定するとともに、課題解決への見通しを立てる。 【問】「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について疑問はないだろうか。また、この問いをどのように解決したらよいだろうか。 [予想される疑問] ・よりよい社会とはどのような社会か。 ・様々な考えがある中でどのように社会全体で取り組むのか。 <留> 大項目C(1)の「人間の尊重についての考え方」、「日本国憲法の基本的原則」や小学校社会科における我が国の政治に関する学習成果を生かすようにする。</p>			●	<p>●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見だし、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立つような情報を挙げたりするなど、解決の見通しを立てている。(ワークシート)</p> <p>※単元のはじめに、学習の見通しを立てる機会を設定する。</p>
第一次 4時間	<p>【ねらい】 選挙や政党など、様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためにどのような仕組みが整えられているかを理解させ、民主政治の推進には公正な世論の形成が必要なことについて考察させる。</p> <p>【第一次の問い】 社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。</p> <p>◇身近で具体的な事例から、多数決の運用の在り方について考察する活動を通して多数決の原理とその運用の在り方について理解する。 【問】様々な立場の人の意見をどうまとめていったらよいだろうか。 ◇対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、選挙に関する資料などを読み取り、選挙の意義や現状について考察し、表現する。 【問】なぜ選挙が行われるのか。 ◇政党が議会制民主主義の運営上不可欠であることを歴史的分野の学習を踏まえ理解するとともに、政党の主義・主張をインターネットで検索する。 【問】政党はどのような役割を果たしているのか。 ◇政党に関する資料を読み取り、民主政治において表現の自由と本場で学習したことを基に情報を批判的に読み取るなどして、メディアリテラシーが重要であることを理解するとともに、議論することを通して国民の政治参加の意義について考察する。 【問】主権者として自分の考えを政治に反映させるためにはどのような方法があり、どのようなことに留意すべきか。</p> <p>※各次で理解させたい概念等に関わる知識を重視する。</p>	●	●	●	<p>●選挙に参加することの重要性について理解を深めている。(ワークシート)</p> <p>●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と選挙との関連について多面的・多角的に考察し、分かりやすく表現している。(ワークシート)</p> <p>※各時間の目標を達成できるように生徒を見取り、支援する「学習改善につなげる評価」(●)を行う。</p> <p>○議会制民主主義の意義や、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。(ワークシート、ペーパーテスト)</p>
～中 略～ (第二次～第四次 計16時間)					
単元のまとめ 1時間	<p>【ねらい】 単元を貫く問いに戻り、主権者である国民の政治参加の在り方について考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。</p> <p>【単元を貫く問い】 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。</p> <p>◇前次に実施した模擬選挙の投票と結果に対する考察を基に、社会をよりよいものにするために主権者として政治にどのように関わるかを考察、構想する。 【問：単元を貫く問い】 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。 <留> 単元を貫く問いに対し自らの考えをまとめる際は、具体的な現実社会の諸課題を取り上げ、社会参画を視野に自らの行動と結び付けて考察、構想するように指導する。</p> <p>※「見方・考え方」を働かせていることが重要。</p> <p>※自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況。</p> <p>※主体的に社会に関わろうとする態度。(公民的分野特有)</p>			○	<p>○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、主権者として政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(ワークシート)</p> <p>○単元の導入に立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。(ワークシート)</p> <p>○我が国の政治や政治参加について関心をもち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。(ワークシート)</p>

Ⅲ 観点別学習状況の評価の進め方(事例)

【知識・技能】

民主政治と政治参加に関する理解について評価します。

各次の学習の過程で理解の状況を見取り、「学習改善につなげる評価」を行います。「おおむね満足できる」状況(B)に達していない生徒がいる場合は、次の授業以降に再度指導するなど、確実に理解させる手立てが必要となります。このような指導、助言を行ったうえで、次末に「評定に用いる評価」を行います。評価方法は、ワークシート等に論述したものやペーパーテストが考えられます。

また、情報を収集し、読み取り、まとめる場面では、本単元までに身に付けた技能が活用されているか「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行います。

【思考・判断・表現】

「現代社会の見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、表現できているかを評価します。

第一次～第四次において「学習改善につなげる評価」を行い、生徒に必要な指導や助言をしたうえで、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行います。この観点の評価で留意すべきことは、考察や構想にあたって、「対立と合意」「効率と公正」「個人の尊重と法の支配」「民主主義」などに着目しているかどうかを確認することです。したがって、「学習改善につなげる評価」で生徒がこの概念に着目していない場合、これらについて復習したり、考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりするなどしたうえで、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行うことが大切です。

【主体的に学習に取り組む態度】

民主政治と政治参加に関する学習に対して、自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、民主政治や政治参加の重要性から、主体的に社会に関わろうとする態度について評価します。

このうち、「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」については、単元末で、単元はじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価します。一方、「主体的に社会に関わろうとする態度」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていききたいこととして見いだした、問いの内容とその社会的意義の記述によって評価します。具体的には、「単元の導入」で、単元の学習の見通しをもたせるようにします。第二次で、「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行ったうえで、「単元のまとめ」でのワークシートへの記述を基に「評定に用いる評価」を行います。

資料 単元を見通して学び、振り返るワークシートの例

各次のまとめを積み重ね、単元末に学習を振り返りながらまとめとして活用する。

「単元を貫く問い」 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

単元の導入 社会を担う主権者となるために

「単元を貫く問い」を読んで生まれた疑問

「単元を貫く問い」に対する答えの予想

問いの解決のために役立つような既習事項

1 社会の課題を解決するために

まとめ なぜ議会を通じて政治が行われるのか。議会制民主主義がうまく機能するために大切なことは何か。

学習を振り返って気付いたこと

授業者が評価を記入する。

問いは予め書かず、記入させる際に教師が提示する。 記 A・B・C

2 社会の課題に国全体で取り組むには～食品ロスを例に～

まとめ 国会、内閣はそれぞれどのような役割を担っているのか。また、どのような関係にあるか。

学習を振り返って気付いたこと

学習者が学習を通して気付いた点や以降の学習への見通しを記入する。授業者は記述などから学習の改善に向けた助言を行う。

記 A・B・C

3 公正な裁判の保障は人々の人権を守ることになるのか

まとめ なぜ裁判は法に基づいて行われるのか。私たちの人権を守ることとの関係を説明してみよう。

学習を振り返って気付いたこと

記 A・B・C

4 社会の課題を私たちの力で解決していくために

まとめ なぜ地方公共団体の政治は国と異なるのか。

学習を振り返って気付いたこと

記 A・B・C

単元のまとめ 主権者として社会に参画するためには

① これまでの学習を生かして「単元を貫く問い」の答えを論述しよう。その際、「対立と合意」「効率と公正」「個人の尊重と法の支配」「民主主義」などに着目してみよう。

記 A・B・C

② 単元の学習を振り返り、これからも問い続けて(考え続けて)いきたいこと、問い続けたい理由(解決によって社会をどのようにしていきたいか)を書こう。

記 A・B・C

Ⅳ 観点ごとの評価の総括(事例)



※単元における観点ごとの評価については、「評定に用いる評価」(○)を基に下表のように行うことが考えられます。※「学習改善につなげる評価」(●)については、表中の評価場面に限らず、適宜実施し、生徒にフィードバックして資質・能力の育成を図るようにします。

氏名	観点	次	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
置賜太郎	知・技			●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A~C
	思・判・表			●	●	●	●	○100%	A~C
	主体的態度		●		●			○100%	A~C